

大阪情報コンピュータ専門学校 授業シラバス (2019年度)

専門分野区分	デザイン・作 画技法	科目名	デッサンⅡ	科目コード	D0500A1
配当期	前期・ <u>後期</u> ・通年	授業実施形態	<u>通常</u> ・集中	単位数	4単位
担当教員名	森田 伸	履修グループ	1J(GD/MD/SD/SL)	授業方法	演習
実務経験の内容	インテリアファブリックス会社にデザイナーとして7年間、フリーランスでグラフィックデザイナー、イラストレーターとして9年間の実務経験を活かし、デザインの基礎から実践的な課題に対して講義、指導を行う。				
学習一般目標	デッサンを通じてモノを美しいと思える感性と豊かな表現力を身につける。 デッサンの基本的な表現のしかた(①モノをしっかり観察する目を養う②構図を考える③質感の再現ができる④形や奥行き、空間、色を表現できる)を学び、モチーフ(目の前にあるもの)を正確に把握し、平面上に描き出せるようになる。デッサン、水彩等で描きたいものを楽しく自由に描き、見る人にイメージや感動を伝える。				
授業の概要 および学習上 の助言	デッサンはモノ(モチーフ)をよく観ることから始まります。そのモノの印象、美しさを考えてみましょう。そしてその感じた印象や美しさを伝えるために、どのように描きけばよいかを自分なりに試行錯誤して表現していきましょう。普段からものをよく観察するよう心がけましょう。積み重ねることではか身につきます。				
教科書および 参考書	『パーフェクトマスター デッサン・静物』 誠文堂新光社 『アーティストのための美術解剖学』 マール社 必要に応じてプリント配布。				
履修に必要な 予備知識や 技能	実習で各自用意するものとして、 鉛筆(推奨:3H、H、HB、B、3B 各1本)、練消しゴム、普通のケジゴム、カッターナイフ、スケール、 ※指定日 水彩道具(水彩絵の具、筆、パレット、水入れ、雑巾)				
使用機器					
使用ソフト					
学習到達目標	学部DP(番号表記)	学生が達成すべき行動目標			
	1	空間表現の基本、遠近法を理解し形状を把握することができる。			
	1	鉛筆を使った陰影表現により、立体感を表現できる。			
	1	骨格や人体構造を理解し、人物表現ができる。			
	1	着彩色鉛筆などの素描材料の使用法を理解し、筆触や色彩の効果について工夫しながら、自分らしい表現をすることができる。			
1	講義と実習において、意欲を持って取り組むことができる。				

達成度評価	評価方法	試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポート フォリオ	その他	合計	
	総合評価割合						80		20	100
	学部 D P	1. 知識・理解					80			80
		2. 思考・判断								
		3. 態度								
		4. 技能・表現								
		5. 関心・意欲							20	20
評価の要点	評価方法	評価の実施方法と注意点								
	試験									
	クイズ 小テスト									
	レポート									
	成果発表 (口頭・実技)									
	作品	授業内で制作する作品を提出する。 課題に対する理解度・完成度から評価を行う。 ※立体表現、描きこみに特に注意すること。								
	ポートフォリオ									
	その他	授業に対する姿勢や課題に対する取り組み、出席状況など総合的に評価する。								

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)
第1週	「立方体」「楕円」 復習	講義・実習	
第2週	「自分の靴」 構造、質感、臭い、拘り	講義・実習	
第3週	続き「自分の靴」	講義・実習	
第4週	続き「自分の靴」	講義・実習	
第5週	「風景スケッチ」 主題の選択力	講義・実習	
第6週	細密デッサン「サザエ」 描写の限界にチャレンジ	講義・実習	
第7週	続き細密デッサン「サザエ」	講義・実習	
第8週	「野菜」 着彩	講義・実習	持ち物 水彩道具
第9週	「人物スケッチ・クロッキー」 人体骨格の把握と理解	講義・実習	
第10週	人物デッサン <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">モデル</span>	講義・実習	
第11週	石膏デッサン 構造、ボリューム感	講義・実習	
第12週	続き石膏デッサン	講義・実習	
第13週	卓上デッサン「2種組モチーフ」 空間感 相互の位置関係の把握	講義・実習	
第14週	続き卓上デッサン	講義・実習	